

第二回

龍門之會

金剛龍謹能の会



能
熊野
花之留

平成25年 3月3日(日) 午後1時30分始
於 金剛能楽堂

〒602-0912 京都市上京区烏丸通中立売上ル
☎ 075-441-7222 FAX 075-451-1008

◆会員券 5,000円 ◆一般券 5,500円 ◆学生券 3,000円

●龍門之会の会員に入会していただきますと、年一回の会のご案内及び観能会のご案内を優先的にさせていただきます。

熊野子

船弁慶

辻 剛史
金剛永謙
有松達一
白波之伝
岡 茂山
茂

谷口正壽
井上敬介
左崎泰弘

千鳥

茂山千三郎

井口竜也
茂山千五郎

後見鈴木 実

林 梵

熊

熊野
廣田泰徳
金剛龍謙
福王和幸
中村宜成

安福光雄
林 吉共衛
森田保美

後見 廣田幸徳
金剛永謙
宇高徳成

重木品也
種田道一
今井克紀
松野恭憲
豊嶋寺洋
豊嶋晃嗣
宇高通成

附祝言

主催 龍門之会
公益財団法人
金剛能楽堂財団
後援

熊野花子

あらすじ

平宗盛は、遠江池田の宿の長者であった熊野を幕に召し仕立てさせ、後の熊野には故郷に病床の老母があり、見舞うために度々暇を請うても、宗盛はこれを許さずとした。ある日、嵐から待女の前橋が母の重病を伝える手紙を持って上がってきたので、熊野は宗盛への手紙を読み、今度暇を請うが、宗盛は聞き入れず花見の休を命ずる。熊野は気のまま花見の休で清水寺へ向かい、満開の桜の下、酒宴が始まる。宗盛に所望されて熊野がうろたえながら舞を舞うと、にわかには村柄が染めて花を散らす。熊野は散る花に母のことを思い、「いかにせん母の春も借しけれど、熊野の花を散らるる」と涙ながらに和歌を短歌を唱え、熊野の心中を察した宗盛はいくも感づき、ついに暇を与える。熊野はこれも清水屋首の「何れ舞いと喜び合草すると、飛び立つ思ひで、花見の影から風田へ回す」と、名所を誇り込みながら花見の進行も美しい文筆と五七調の響きで素晴らしく、母のあけはけのような空回氣に彩られた、古来より母の熊を代表する名曲である。



金剛龍謙
能楽家金剛流若宮家
公益財団法人金剛能楽堂財団 評議員

略歴

昭和六十三年、二十六世宗家金剛永謙の長男として京都に生れる。幼少より父、金剛水鏡、祖父金剛龍三郎事。五歳(仕舞)「夏乞」にて初舞台。十歳(熊)「若船」初シテを勤める。平成十二年二月同志社大学文学部卒業。平成二十二年四月、金剛流スパン・シボトガキを公演に参拝。

主な曲目
「石巻」「第一」「第二」「道成寺」「望月」など。

第二回 金剛龍謙能の会 龍門之会 FAXお申し込み書

FAX番号 075-451-1008

お名前

お電話・FAX

ご住所 〒

□会員券(1口5,000円) _____ 枚 □一般券(5,500円) _____ 枚 □学生券(3,000円) _____ 枚

(お申込み後、観能券を郵送させていただきます。お問い合わせは金剛能楽堂まで)

金剛能楽堂

〒602-0912
京都市上京区烏丸通中立売上ル
☎075-441-7222



ホームページ

http://www.kongou-net.com/ryu-mon.html